

平成27年11月17日

## 小田原市芸術文化創造センター整備に係る今後の方針について

**実施設計にとらわれない自由な発想による事業提案を軸に、整備の可能性を探っていく。**

<理由>

方針については、「早期の整備を望む市民の意見」、「整備の確実性」、「財政的な負担」、「性能や質などの整備内容に対する市民要望の最大限の実現化」の4点を重視した。

延期は、市民意見、市民会館の現状、市民会館に多額の改修費を要すること等から選択することは出来ない。

設計見直しでは、予算内で整備することは不可能である。

分割工事は、早期整備の可能性はあるが、依然として入札不調のリスクがあり、後年、小ホールを整備すれば、さらに多額の建設費を要することになる。また、市民の利用率が高い小ホールを整備しないことは、市民要望と大きくかけ離れるものである。

事業提案は、提案の条件（要求水準）を作成する必要があるが、その作成に基本計画をベースに取り組めば、整備の遅れを最小限に抑えることが出来る。また、民間事業者から前向きな意向が示されており、入札不調のリスクも無い。さらに、設計料を含めて予算内で整備を行うことで、財政的な負担も一番少なくすることが出来るものである。実施設計に捉われずに諸施設の配置や機能を検討することで、小ホールを含めた整備を追求することが出来る。

入札不調の原因の一つが実施設計のデザインにあると指摘する声もあり、整備の確実性が高く、予算内で、基本計画をベースとした市民要望を最大限反映していくためには、実施設計にとらわれない自由な発想による事業提案を軸に今後も整備の可能性を探っていくことが、市民の皆様の期待に応えることである。